



ロオドベルトスノ労働價值學説ト平均利潤率ノ問題 (其二)

小泉, 信三

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 29(4):543-558

(Issue Date)

1920-10

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053241>



ロオドベルトスノ勞働價值學說ト

平均利潤率ノ問題 (其二)

慶應義塾大學教授

小 泉 信 三

六

サテ賃子ノ全額ハ如何ナル理法ニ從ツテ資本利潤ト地代トニ分レルカ。固ヨリ地主ト資本家トノ別ヲ生ジナイデ、原料ノ生産モ其加工モ凡テ同一企業家ノ權下ニ於テ行ハレタ時代ニ於テハ勞働者ノ所得ト賃子トノ分割丈ケガアツテ賃子全額ハ一括シテコノ地主兼資本家ノ手ニ屬シテ居タノデアル。此時代ニハ勿論地代ト資本利潤トノ分岐ハナイ。然ルニ分業ノ結果原料ノ生産 (Kohproduction) ト原料ニ加工スル製造工業 (Fabrication) トガ別々ノ人ニ依テ行ハレルコトニナルト、一回全所得カラ賃銀總額ヲ控除シタ殘餘 (即チ賃子) ハ如何ナル割合デ原生產業ト製造工業トノ間ニ分配セラレルカト云フ問題ガ起ル。此問ハ上述ノ價值法則ニ依テ極メテ簡單ニ答ヘラレル即チ投下勞働量ニ比例シテ賃子ハ原料生産ト製造工業トノ間ニ分配セラレルノデ

アル。Bohm-Bawerkガ假ニ設ケタ一例ニ依テ説明スレバ、一定量ノ原產物ヲ作ルノニ百日分ノ勞働ガ要セラレ、其原料ノ加工製造ガ更ニ二百日分ヲ要スルトスル、而シテ貸子ハ生産物總價值ノ百分四十ヲ占メルモノトスレバ、勞働四百日分ノ生産物が貸子トシテ原料生産ニ歸屬シ、同ジク八百日分ガ製造工業ニ對スル貸子トナルト云フノデアアル即チ原產物ノ價值ガ製造工業產物ノ價值ニ比較シテ少ナケレバ少ナイ程原產業ニ歸屬スル貸子ノ割合ハ低ク、其反對ナラバ又反對ノ結果ガアル、而シテ此場合投下セラレタ資本額ハ此分配比率ニ關係シナイノデアアル。

サテ製造工業ニ配當セラレタ貸子額ハ直チニ製造業ニ投下セラレタ全資本ニ對スル利潤ト看做シテ差支ナイケレドモ、原產業ニ歸屬スル貸子ハ直チニ之ヲ地代ト見ル譯ニハ行カス。何トナレバ原產業ニモ亦資本ガ投下セラレテアルカラデアアル。ソコデ此貸子ニ就テ利潤ト地代トヲ區別シナケレバナラス、而シテ此區別ノ標準トナルモノハ普通利潤率デアアル、普通利潤 *üblicher Kapitalgewinn* ハ製造工業ニ投下セラレタ全資本額ト之ニ算當セラル、貸子額トヲ比較スル事ニ依テ得ラレル、斯クシテ得タル利潤率ヲ原產業貸子ニ適用シテ、若シソレガ原產業ニ投下セラレタ資本ニ對シテ普通率以上ニ相當スレバ、其剩餘部分ハ即チ地主ノ地主トシテ受クベキ地代ダト

云フノデアル。然ラバ原生産業ニ歸屬スル貸子ノ投下資本ニ對スル比率ハ必ズ普通利潤率以上ニ上ルベキ理由ガアルデアラウカ。Robertusハ然リト答ヘル。ソレハ原生産業ハ製造業ニ對シテ特ニ有利ナ地位ニ在ルカラデアアル。製造業ニ於テハ其資本ノ一部分ヲ(屢々大ナル部分)ヲ原料購入ノ爲メニ支出シナケレバナラヌノニ反シテ、原生産業ニ於テハ此費目ガナイ。然ルニRobertusニ從ヘバ原料カラ新シイ價值ガ生レナイ、ソレ故製造業ヲ原生産業ト比較スルト、貸子ヲ増サズシテ、支出資本ヲ増サナケレバナラヌ不利ガアルノデアアル。即チ原生産業ニ歸屬スル貸子ノ投下資本ニ對スル割合ハ製造業ニ落チル貸子ノ投下資本ニ對スル割合ヨリモ必ズ高イ、地代ハ必然此處カラ生ズルト云フノガ彼レノ分配理論デアアル。

念ノ爲メ原文ヲ利用スル事左ノ如シ

七

Robertus 問ヲ設ケテ曰ク、總ジテ原生産物ノ上ニ歸屬スル貸子ヨリ資本利潤ヲ控除シタル後ニ猶ホ幾許カガ殘ルベキ道理ガアルカ。又如何ナル前提ノ下ニ、如何ナル理由ニ由ツテコノ餘剩ガ殘ルカト。之ニ對シテ答ヘテ曰フノニ「：原生産物モ製造工

業品モ共ニ其費用勞働ニ從テ交換セラルト云フ前提、原產物ノ價值ハ僅カニ其費用勞働ニ等シトノ前提ノ下ニ於テハ(Ricardoモ亦正ニ是ヲ其ノ一切ノ研究ノ根據トシテ承認ス)原產物ノ價值ノ高低如何ヲ問ハズ、貸子ノ原產物ニ歸屬スル部分カラ資本利潤ヲ控除シタ後ニハ常ニ何物カ、殘ラナクテハナラス筈デアル、其理由ハ次ノ如キモノデアル。予ハ前ニ貸子ニ原產物ノ價值ト製造品ノ價值トノ比例ニ應ジテ分配セラレ、而シテ此價值ハ費用勞働ニ由テ決セラレルモノト假定シタ、斯ク云フ事ハマタ當然次ノ事ヲモ意味スル。此貸子部分ノ大小ハ資本——ソレニ對シテ利潤ガ算當セラル、トコロノ資本——ノ大小ニ由テハ決セラレズシテ、農業上若シクハ工業上ノ直接勞働ト、道具機械ノ消耗ノ爲メ間接ニ費ヤサレタ勞働トヲ加ヘタモノニ依テ決定セラレル事ヲ意味スルノデアアル。ソレ故ニ資本ノ中デ道具ト賃銀トカラ成立ツ部分ノ手ガ貸子部分ノ大小ニ影響ヲ與ヘ得ル。何トナレバ道具ノ消耗ハ間接勞働ノ量ヲ定メ、又賃銀額ハ(少クモ賃銀率ガ同一ナル場合ニハ)直接勞働ト比例スル、而シテ吾々ノ前提ニヨレバ此兩者ガ合シテ生產物ノ價值ヲ形成スルモノダカラデアアル、然ルニ資本中、原料價值カラ成立ツ部分ハ決シテ貸子ニ影響スル事が出來ナイ、何トナレバ此部分ハ決シテ製造業ノ添加生產物(Zusatzprodukt)ノ費用勞働ニ影響ヲ與ヘ得ナイ

カラデアル。(原料價值ハ新價值ノ發生ニ關係ナキノ義)：：反之原產物ノ價值或ハ原料價值ハ「出費」トシテハ資本財産ノ一項目ヲナシ、而シテ製造生産物ニ歸屬スル賃子部分ハ此資本財産ニ對シテ利潤トシテ算當セラレナクテハナラスノデアル。然ルニ農業資本ニ於テハ此部分ガ缺ケテ居ル。農業ハ豫メ行ハレタ生産ノ結果ヲ原料ト要スル事ガナク、抑、初テ生産ヲ行フノデアル。而シテ農業ニ於テ原料ニ比シテベキ財産部分ト云ヘバ土地其者デアルダラウガ、是レハ有ユル學說ニ依テ無價ナルモノト前提セラレテ居ルノデアル。故ニ農業ト工業トハ賃子部分ノ決定ニ關係アル兩資本部分(賃銀、道具)ハ共通ニスルケレドモ、是ニ影響ノナイ部分ハ共通ニシナイ然ニ前ノ兩資本部分ニ依テ決定セラレタ賃子ヲ資本ニ對シテ算當スル場合ニハ後者モ亦資本トシテ計算ノ中ニ入レナケレバナラヌ。而シテ此部分ハ製造工業資本ニノミ存スルノデアル。其故原產物並ニ製造產物ノ價值ガ費用勞働ニ依テ定メラレ、賃子ハ此價值ニ比例シテ原生產物ト製造產物ノ所有者ニ分配セラレルモノト假定シテモ、即チ原生產及ビ製造工業ニ於テ生ズル賃子部分ガ夫レノ生産物ニ費ヤサレタ勞働量ニ比例スルトシテモ、農業及ビ製造業ニ投下セラレタ資本(賃子ハ利潤トシテ此資本ニ對シテ割當テラレルノデアルガ)相互ノ比例ハ投ゼラレタ勞働量及ビコノ勞働

量ニ依テ決定セラレタ賃子部分相互ノ比例ト同一デハナクテ原生產物及製造產物ノ上ニ歸スル賃子部ガ等大ナル場合製造資本ハ農業資本ヨリモ其中ニ含マレテ居ル原料價值丈ケヨリ大デアル、而シテ此原料價值ハ、生ジタル賃子ヲ利潤トシテソレニ算當スベキ製造資本ヲバ増大セシメハスルガ利潤其者ハ増大セシメズ、又從テ同時ニ農業ヲモ併セ支配スル一般資本利潤率ヲ低下セシメルノ結果ヲ來タスカラ農業ニ於テハ必然的ニ此利潤率ニ依テ利潤ヲ計算シタ後ニ猶ホ賃子ノ一部分ガ殘ラナクテハナラスノデアル。：故ニ原生產物ノ價值ガ費用勞働ニ等シクサヘアレバRicardoモ亦、最不利ナル事情ノ下ニ造ラレタ生產物ニ就テハ此事ヲ承認シタ一般賃子ノ前提條件——即チ勞働ノ十分ナル生產能率及土地資本ノ私有——ガ備ハル限り原生產物ノ價值ハ如何ニ少ナクテモ、或ハ農業勞働ノ生產能率、即チ土地ノ豐度ハ如何ニ低クテモ、必ズ地代ハ發生シナケレバナラス。：現實ノ交易ニ於テ、少ナクモ價值ハ費用勞働ニ等シトノ法則ニ歸屬セントスルノ事實アル事ガ通則ヲナス限り地代モ亦通則デアル。地代ガ生ゼズシテ資本利潤ノミガ生ジルノハRicardoノ云フ様ニ本來ノ狀態デハナクテ、一ノ變態ニ外ナラス(III, Brief 5 95—100) サウニ云フ譯デアルカラRicardoノ地代論ハ或ハ彼レノ理論全體ノ根本原則タル生產物ハ何レモ費ヤサレ

タル勞働ニ應ジテ價值ヲ有ストノ立言ト相容レヌカ……或ハ此原則ヲ固執スレバ、彼レノ地代論ガ謬ツテ居ルカ何レカデアル(此理論ハ私ガ上ニ試ミタヨリ以外ノ方法デハ立テ様ガナイXIII, Brief S, 173)コナガ Rodbertusノ分配論ノ根本原理デ企業家利潤、利子借地料(UnternehmungsgewinnZins, Pacht)ハ何レモ上ニ説明シタ資本利潤ト地代トガ第二次的ニ細分セラレタモノニ外ナラスノデアル。

八

右ニ記述スルトコロニ依テ Rodbertusノ分配論上、即チ賃子總額ノ分レテ利潤トナリ地代トナル説明ノ上ニ於テ普通利潤率ナルモノガ甚ダ重要ナル役目ヲ演ズルコト、而シテ此普通利潤率ナルモノハ勞働價值學說ニ依テ説明セラルベキモノナル事ハ明ニサレタト思フ。ソコデ是レニ對シテ批評ヲ加フベキ順序トナツタ。

賃子發生(Marxノ用語ニ從ヘバ、餘剩價值發生)ニ關スル Rodbertusノ説明ガ兎ニ角甚ダ Marxニ近似シテ居ルコトハ爭フ事ガ出來ナイ。兩者ノ何レニ取テモ賃子ハ勞働(力)ノ價值ト、ソノ勞働ノ生産スル價值額トガ一致シナイデ、後者ガ前者ヲ超過シ而シ、テ此超過額ガ之ヲ產出スル勞働以外ノ者ノ手ニ歸屬スルトコロカラ生ズル。ソレ故全額

ノ資本ヲ投ジテ生産ヲ行フ場合ニモ其資本中勞働購入ノ爲メ(即チ賃銀トシテ)支出セラル、部分ノ割合ガ同一デナケレバ産出セラル、賃子額ハ同一デハナイ。タハ Marx ハ同資本中賃銀トシテ支出セラル、部分ノミヲ可變部分トシ、残り一切ヲ不變部分トシテ一括シ、後者ニアリテハ常ニ消耗セラレタ價值額丈ケガ、生産物ノ價值トシテ再現ニ止マツテ一切價值ノ増減ガ起ラズ、價值ノ増加即チ餘剩價值ノ發生ヲ必ズ資本ノ可變部分カラノミ起ルト説明シタノニ反シテ、Rohbertus ハ資本財産ヲ別ケテ原料、道具及ビ賃銀ノ三ツトナシ、原料價值ハ其儘生産物ノ價值トナツテ再現スルニ止マルノニ反シテ、賃銀及ビ道具ノ消耗額ハ賃子ノ大小ニ影響スルモノト認メテ居ル。即チ Marx ガ不變資本ノ一部分ト認メタ生産要具ノ消耗額ヲ Rohbertus ハ所謂可變資本ノ一部ニ數ヘテ居ルノデアル。此點ハ Marx ノ方ガ正シイノデ、Rohbertus ノ前提カラ出發スレバ、消耗要具ハ原料ト同ジク之ヲ不變資本中ニ數フベキガ當然ダト思フケレドモ、今其事ハ深クハ論ジナイ。タハ Marx ニ取テモ Rohbertus ニ取テモ、賃子額(餘剩價值額)ノ大小ハ資本中ノ——Rohbertus ノ用語デハ資本財産中ノ——賃銀部分ノ大小ニ依テハ影響セラレルケレドモ、原料價值ノ大小トハ無關係デアル事ハ爭ガナイノデアルカラ此點丈ケヲ取ツテ批評ヲ下セバ好イノデアル。批評ノ主旨ハ一言デ盡キ

ル。Rodbertus ガ其分配理論上ニ於テ重ヲ措イタ利潤率均一ノ事實ヲ認メル以上ハ其議論ノ出發點タル勞働價值說ハ棄テナケレバナラス。貨物ハ其生産ニ費ヤサレタ勞働量ニ應ジテ相互交換セラレズシテ、或物ハ勞働量以上ノ價值ヲ有シ、或物ハ勞働量以下ノ價值ヲ得ナケレバナラス。若シ Rodbertus ガ認メタヤウニ價值ハ勞働費用ニ歸着スルモノナラバ、利潤率ハ永久ニ歸一セザル事ヲ本則トスル、即チ資本財産中原料價值ノ重キヲ占メル産業ニ於テハ、ソノ反對ノ實アル産業ヨリモ利潤率が低クナケレバナラスト云フノデアアル。此道理ハ實例ヲ假設シテ説明スレバ極メテ容易ニ會得セラレルダラウ。

九

先ヅ Böhm-Bawerk ニ倣ツテ簡易ナ一例ヲ設ケル。(Capital and Interest, P. 358)

一生産業例ヘバ製靴業デ十人ノ勞働者ガ雇ハレテ居テ、各勞働者ガ一年百磅ノ價值アル生産物ヲ造ルモノトスル。然ルニ一勞働者ノ生計必要費ハ一年五十磅デ、各勞働者ハコレ丈ケヲ賃銀トシテ收得スルモノトスル。サウスルト此場合雇主ガ收得スル賃子ハ前提ニ依テ投下資本總額ノ大小ニハ關係ナク常ニ五百磅(100×10—50×10)ニ

500)ナルベキ筈デアル。投下セラレタ資本額ガ、賃銀ノ爲メ五百磅、原料ノ爲メ五百磅計一千磅デアルトスレバ、五百磅ノ賃子ハ千磅ノ資本ニ對シテ百分五十ノ利潤トナル、然ルニ別ニ他ノ産業、例ヘバ金匠業ニ同ジク十人ノ勞働者ガ雇ハレテ、各人ハ同ジク年百磅ノ價值ヲ生産シ、同ジク其二分一ヲ賃銀トシテ受ケ、他ノ半分ヲ賃子トシテ雇主ノ手ニ歸セシメテ居ルトスル、トコロガ打金匠ノ原料トシテ使用スル金ハ靴工ノ原料タル皮革ヨリモ遙カニ高價デアル爲メ雇主ハ賃銀トシテ五百磅、金ノ購入ノ爲メ一萬九千五百磅、合セテ二萬磅ノ總資本ヲ支出シナケレバナラストスルト、五百磅ノ賃子ハ二萬磅ノ資本ニ對シテハ僅カニ百分ノ二半ノ利潤ニ相當スルノデアルコレハ忠實ニ Rodbertus ノ前提スルトコロニ從ツテ設ケタ一例デアルガ、更ニ之ヲモット一般的ノ形デ現ハスニハ資本論第三卷ニ於テ Marx ガ「利潤ノ平均利潤化」論中ニ掲ゲタ表ヲ借用スルノガ甚ダ便利デアル。

茲ニ社會ニ五ノ産業ガアツテ、ソノ各ニ投下セラレタ資本總額ハ同一デアルガ、其中ニ就テ賃銀ニ支出セラル、部分ノ原料ニ投ゼラル、部分ノ割合ガ産業ニ由テ一々違フモノトシ、而シテ右ノ例ニアツタ様ニ一勞働者ガ產出スル價值額ハ常ニソノ生活費即チ賃銀額ノ二倍ニ等シキモノトシ、生産額カラ賃銀ヲ控除シタ殘高

ノ賃銀ニ於ケル比例ヲ賃子率(Marxノ餘剩價值率)ト命名スルト茲ニ左ノ如キ表ガ成立スル(Marx, Kapital III I. Teil S. 133)

資 本	賃 子 率	賃 子 額	生産物價值	利 潤 率
I. $50_m + 20_i$	100%	20	120	20%
II. $70_m + 30_i$	100%	30	130	30%
III. $60 + 40_i$	100%	40	140	40%
IV. $85_m + 15_i$	100%	15	115	15%
V. $95_m + 5_i$	100%	5	105	5%

(道具ノ消耗額ハ姑ラク除外シテアルガ、ソレガ爲メ原理ニ變更ヲ來ス事ハナイト信ズル)即チ資本構成要素ノ比率如何ニ依テ利潤率ハ一々違ハナケレバナラヌノデアル、然ラバ *Robertus* ハ利潤率ノ不均一ヲ當然ノ事トシテ承認シタカト云フニ決シテサウデハナクテ彼レハ明カニ資本間ノ競争ニ依テ利潤率ハ均一ニ歸スベキ事ヲ認メテ居ツタノデアル、彼レノ所謂普通利潤率ハ製造工業ニ投下セラレタ資本總額ト之ヨリ生ズル賃子總額トノ比ニ依テ定マルノデ、上記ノ表ニ就テ云ヘバ賃子合計 $20 + 30 + 40 + 15 + 5 = 110$ ノ資本合計五百ニ對スル比、即チ 22% ガソレデアルガ彼レハ各

製造業ニ於ケル利潤率ハミナ此普通率ニ歸着シヨウトスルモノデ、若シ一産業例ヘ
バ上記打金匠ノ如キニ於ケル利潤率ガ此普通率以下ニアルトキハ、資本ハ其産業カ
ラ引出サレテ他ニ移リ、又ソレガ此普通率ヨリモ高度ニアルトキハ他カラ其産業ニ
資本ガ流入シテ之ヲ普通率マデ引下グル作用ガ行ハレル事ヲ明カニ承認シテ居ル
III. Brief S. 94) 資本ガ流入スレバ何故利潤率ガ下降シ、資本ガ流出スレバ何故利潤率
ガ上進スルカ、之ニ對スル解答ハ資本ノ流入出ニ依テ、生産額ガ増減スル爲メ、需要供
給ノ理ニ依テ生産物ノ市價ガ或ハ下落シ、或ハ騰貴スルカラダト云フノ外ニハアリ
得ナイ併シ之ヲ承認スルノハ生産物ガ其生産ノ爲メニ投セラレタ勞働量ニ應ジテ
交換セラレルト云最初ノ原則ヲ放棄スル事ヲ意味スル或貨物ハ其勞働費用以上ニ
賣レ、或物ハソレ以下ニ賣レル事ヲ承認シナクテハナラスノデアル。今姑ラク利潤率
ガ平均シタ場合ノ貨物ノ賣價ヲ價值ニ對シテ價格ト呼ブナラバ、Marxヲ引用シテ、資
本ハ利潤ノ低イ方面カラ引出サレテ、ヨリ高キ利潤ノ生ズル方面ニ投ゼラレル。コノ
不斷ノ流出入ニ依ツテ、即チ利潤率ノ高低ニ應ジテ幾多ノ方面ニ分配セラル、事ニ
依テ、資本ハ幾多ノ産業部門ニ於ケル平均利潤ヲ同一ナラシメ、從テ價值ヲ變ジテ價
格(Marxハ生産價格ト云フ文字ヲ用フ)タラシメル様ナ需要供給關係ヲ作り出ルノデ

アル(Kapital III. I Theil S. 175)ト云フコトガ出來ル、而シテ貨物ノ價格ハ「例外的」ニノミ其價值ト一致シ、最モ發達シタ産業(原料價值ニ多額ノ資本ヲ投ズル産業)ニ於テハ價值ハ價格以下ニアルコトヲ通則トスト(Kapital III. 2 291, 292)云ハナケレバナラナイノデアル。

十

以上ヲ以テ本論ノ要旨ハ既ニ盡キタノデアル、併シ終リニ臨ンデ猶ホ一言 Rotherusノ爲メニ辯解シナケレバナラナイ。

右ニ述ベタトコロニ依テ純然タル勞働價值說ト利潤平均ノ傾向ノ承認トハ兩立シ難キ事ハ略ボ明ニセラレタト思フ、故ニ若シ Rotherusガ恬然トシテ一方デハ貨物ガ、ソレニ費ヤサレタ勞働量ニ應ジテ交換セラル、モノト斷定シ、他ノ一方デハ利潤ハ各産業ヲ通ジテ平均スル傾アルモノト認メテ居タナラバ、ソレハ少シク無反省ニ過ギルト云ハナクテハナラス、現ニ Böhm-Bawerkノ如キハ此意味デ Rotherusヲ批評シテ居ルガ、コレハ些カ酷ニ失シタ嫌ガナイデハナイ。(Böhm-Bawerkハ偶々新版ヲ比較スル邊ナカリシ爲メ、古キ英譯 Capital and Interest PP. 357—365ニ據レリ。讀者諒セヨ)

Robertus モ實ハ勞働價值說ト利潤率平均ノ承認トガ相兩立シナイ事ヲ認メテ居タ
ノデ、~~爾~~ルソレデ彼レハ此兩立シ難キ二ノ者ノ何方ヲ捨テタカト云フト、勞働價值說
ノ方ニ制限ヲ加ヘテ、個々ノ生産物ハ必シモ其勞働費用ニ應ジテ交換セラル、モノ
デハナイガ、全體ニ於テ *im allgemeinen* 勞働價值說ハ眞理ダト云ハウトシタ、乃チ曰ク
「個々ノ場合、即チ各企業、並ビニ分業ノ各段階ニ於テハ、生産物ガソレニ具體サレテ居
ル勞働量ニ精確ニ比例シテ交換セラレルト云フ譯ニハ行カス、而シテ其理由ハ、

(一) 資本金利潤ガ一切ノ企業ヲ通ジテ平均スル少ナクモ傾向ヲ有スルカラ、

(二) 今日同種生産物ノ普遍價值ハ最モ不利ナル事情ノ下デ生産ヲ行フ企業ニ於ケ
ル生産費ニ依テ定マルカラ、*(Zur Erkenntnis S. 130.)*

第二ノ點ハ茲デハ問題ニナラヌ、第一ノ點ニ就テ云フト Robertus ハ上ニ私ガ述べ
タ様ナ意味デ利潤率均一ノ爲メ貨物ガ其勞働費用ニ從ツテ交換セラレル事ノ不可
能ナル道理ヲ説明シテ居ル例ヘバ曰ク、一財ノ生産ガ假ニ四ツノ階段ニ分レ(例ヘバ
紡績、織物、裁縫ト云フ様ニ)各階段ガ獨立シタ企業トナリ、何レモ同量ノ勞働ヲ要スル
モノト想像セヨ、然ルトキハ若シモ此各段階ニ於ケル價值ガ投下勞働量ト一致スル
モノナラバ、各段階ニ於ケル特殊生産物ノ價值モ亦他ノ各段階ニ於ケル生産物ト等

シイデアラウ。然シ乍ラ、最後ノ企業家ハ第一第二ノ企業家ヨリ多クノ勞働ヲ雇傭スルコトハナイニモ拘ハラズヨリ、多クノ利潤ヲ擧ゲナケレバナラス同ジ理ニ由テ第二ノ企業家ハヨリ少ナキ利潤ヲ數ヘナケレバナナルマイ。何トナレバ、最後ノ企業ニ於テハ、必要ナル原料ガ第二ノ企業ニ於ケルヨリモ多クノ勞働ノ生産物デアル爲メ、ソレ丈ケ高イ價值ヲ有スルダラウカラデアル。然ルニ若シモ兩企業ノ各々ノ生産物ガ正ニ其費用勞働ニ應ジテ賣ラレタナラバ利潤トシテ殘ル價值餘剩 *Verrest* ハ最後ノ企業ニ於テハ餘リニ低ク、第二ノ企業ニ於テハ餘リニ高カルベキ筈デアル。トコロガ競争ハ平均利潤ヲ *gleichmässige Gewinne* ヲ要求スルソレ故、一貨物ノ費用勞働ニ等シキ價值ハ資本利潤ヲ生ゼシムルニ足ルトノ命題ハ利潤平均ノ法則ノ結果トシテ修正サレナケレバナラス。 (Das Kapital S. II—12)

X 量ノ A 貨物ハ抑モ何故ニ Y 量ノ B 貨物ト交換セラル、カト云フ問ニ對シテ、ソレハ此兩者ニ同量ノ勞働ガ含マレテ居ルカラダト云フハ明瞭的確ナ解答デアル。併乍ラ此明確ナ解答ハ利潤率平均ノ事實ト相容レナイ。始メ單純明快ヲ極メタ Marx ノ價值學說ガ *Verklaussieren* ノ度ヲ重ネテ、遂ニ一種ノ生産費說ノ如キ觀ヲ呈スルニ至

ツタノハ此爲メデアツタ。Ricardoヲ呼ブニ勞働價值論者デナク、寧ロ生産費論者ヲ以テスルノ可ヲ主張スル者(例ヘバK, Dicht)ガアル事モ亦此難問ト無關係デハナイ。Robertusガ行論ノ透徹明晰ハ吾人ノ推重措カザルトコロデハアルガ、彼レモ亦タ能ク此難關ノ通過ニ成功シテ居ルトハ思ハレナイノデアアル。(完) (大正九年七月廿日)